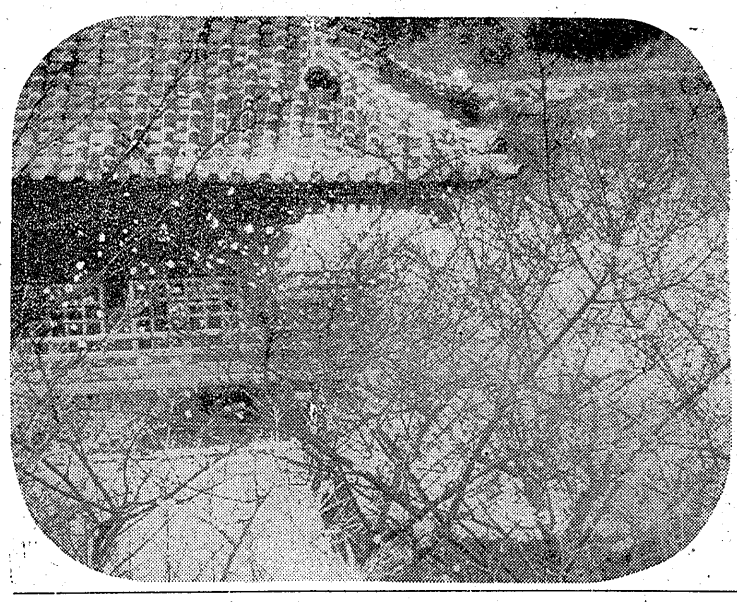
3264号　（昭和30年1月22日第三種郵便物認可）　常磐毎日新聞　（夕刊）　（日曜休刊）　昭和36年2月28日　（火曜日）

春を呼ぶ一千本の梅林

平市夏井専称寺境内



―写真説明―
（写真は一生の盛観として見事一千本梅林を誇りあげた箱崎氏の労をうたうがように境内一ぱいに巻の香りをただよわせる専称寺）

箱崎氏の悲願実る
市も観光誘致に本腰

梅林づくりに一生をたくした人は同市中神谷字畑箱崎昇吾さん。箱崎さんは去る昭和八年に国鉄をやめ、そのときに植林一千本造成の悲願をたてた。自らんで、昨年七十九才でこくなった。

◆平市のウメの名所、夏井の専称寺境内の梅林一千本のソボミがふくらみ、三月初めから中旬にかけて見ごろとなるが、この梅林づくりに一生を捧げた人があり「箱崎梅林」と呼ばれることを聞いた。この梅林を末永く伝え、保存しようと同寺はもとより平観光協会でもポスターを作成、帰◆
◆磐線沿線に配布して宣伝、水戸偕楽園と同様に観梅客を誘致、平の名所にすることになった。◆

埼玉県の安行に足を運んで、白ウメの二、三年前木を仕入れ、境内の東側の丘に毎年植えつけた。せっかく植えた苗木も心ない人に持ち去られるなどしたが悪願をまげることはできないと植え続け、昨年同寺に通って我が子のように可愛がった。そして今年は見事一千本の梅を植えつけ、昨年他界した。

箱崎さんの〝今に見ろ、立派なウメの観光地になる……〟との夢が実現しつ今では毎年美しい花が咲き乱れ、部落の人たちからは〝今年もきれいに咲いた〟と愛し続けられている。

また箱崎さんは梅林のほかに同寺に御影石の〝橋〟、自宅近くの大円寺に石の門柱、鹿島、出羽神社に石の鳥居を寄進、あるいは建設するなど、余生を挙げて一途に送ってきたものである。

この偉業を末永く伝えるべきだと同寺では保存することにした

各賞の受賞者決る
内高今年の卒業生

県立内郷高校の三十五度盛業生昼、夜間部受賞者が次のとおり決った。

◇昼間部▽優等賞＝高梨仁司、神井道子、矢吹充弘、横山由子▽県高体連賞＝佐藤和長▽地区高体連賞＝鈴木勇英、草野宏子▽県高総体連賞＝佐藤和男、林真佐子▽県高体連賞＝吉田昭男、菅野きぎ子、斉藤繁子、坂本光代、三本松俊子、高野金吉、園家昭子、松本政子

幼児の発育向上
厚生省標準を書替える

◆◆最近生まれてから六才までの乳幼児の発育が非常によくなり厚生省では新しい「標準発育表」を作って、母子手帳に付記されている発育表をこの四月から改正することになったと発表している。

▼▼これは同省が二十年間も中断されていたため、戦後の食糧難の影響と食生活の変遷が加えられてきた最近の実情などから発育にかけ離れた現象をもたらしているということから、昨年全国から約二万五千人の乳幼児をサンプル抽出して調査したものである。たとえば男の子で

▼▼去る二十三日、満一才の誕生日を迎えたヤルちゃんこと浩二、女の子では二十五年の三年

四〇という小さい赤ちゃんで、もうすこしで保育器入りをするところだった。それが一年後のいまはりっぱな健康児の折り紙

六カ月の平均身長に三年で早くも追いつくというものである。いわゆる二十五年と比較して男女とも体重、身長、胸囲などあらゆる面で同上てきたというものである。

▼▼このように発育がめざましく飛躍したということは消費同様に育児知識の向上と生活改善による栄養の改善のたまものであろう。第二次世界大戦や戦後の混乱した時代に育った皆、現在の中学生などにしてみればうらやましいものばかりであろうもあのような大豆とイモ類で赤ちゃんを育てるということも珍物語の一つとなってしまったようだ。しかし国民全部がこうした栄養にあるとは限らず、相変らず我が子の発育不全に泣いている親たちのいることを忘れてはなるまい。

工場誘致で地域振興を
三月中に促進協を結成
夏井

自治省提唱の振興都市の指定を受け、常磐地区の一大発展が計画されているが、一方農業は一大転換期にあることは見逃せない。こうしたなかにあって平市夏井地区では将来の発展は工場誘致によらなければ成し得ないとこのほど「夏井地区工場誘致促進協議会」の設立発起人会を開き、会長に大和田喜宗氏を選出、受入れ態勢を整えているが、三月一日ごろ総会を開いて正式に発足、関係方面に強力な実現運動を展開することになった。

現在の農業は機械化などが取り入れられて従来の経営方針では農家の発展はむずかしく、このため猪、鶏、豚などの副業をもつ農家が増えている。この実情から夏井地区でも農業転換期などから勤労して地区内に眠る部落有地を利用しての工場誘致を図ることになったものである。

夏井地区は六部で約五百戸の農家を有しているが、この計画に対して地域発展のためにもとして賛同する者が多い。こうしたなかにあって同地区には中央からも工場を誘致したいとの申し入れも出ているが、地区としては小規模な工場ではなくて、現存する部落有林六十ヘクタール（十八万坪）を活用しての大工場誘致の腹案をもっている。この土地は戦時中そして戦後も飛行場としての候補地にあげられるという地理的条件のよい所で、夏井川を隔てて草野、六号国道に面するなど交通の便も良いもの。一方常磐総合開発計画で工場誘致の候補地としても取りあげられているが、夏井地区民としては是が非でも大工場を誘致したい受入れ態勢にあって同地区には中央からも工場を誘致したいとの申し入れも出ているが、地区としては小規模な工場ではなくて、から始められて工場誘致の実現をはかるべく、地区はもとより平市発展のカギともなるので、大きな期待がかけられている。発起人役員は次の通り。

▽会長＝大和田喜宗▽副会長＝酒井立直、根本一男、阿部磯孝、鶴沼円次郎、鈴木幾一、坂本章安、木田徳平、宮木勝太郎▽会計、阿部安蔵、矢吹繁次▽監事＝阿部太、坂本喜代作、久保木敏直

ガソリン代も食う
磐城市の汚職大詰へ

磐城市役所の不正事件を追求して「相当」と大丸石油小名浜営業所が二百万円にのぼる謝礼を働いていたことが判明したので物品購入にからむ事件は二たんらくした。さ

内郷市の火防行事

内郷市では春の火災予防運動実施の慣習を次のとおり決めた。それによる大火の防止として市内各家庭と学校、映画館、常磐炭礦などと文書による協定、自動ポンプによる警備、消防機関の警備態勢の強化で車輪の火災予防としては常備消防車の点検を行う▽婦人層に対する警火心の高揚❶火災予防実施のさい各分団員から各家庭の婦人層に協❷消防ポンプ自動車による警戒のさい、婦人によびかける

磐城一高の受賞者

▽功績賞＝前生力ツヨ、志賀あけみ、佐久間圭子、坂本昭子、鈴木洋子、吉川洋子、江尻ヨシ、土屋スミ子、小野寺智子、鈴木勝子、市川和子、下山田京子、鶴岡由子新美撰、原原紀子、伊藤智子、寺島和子、秋山智子、伊藤智子、寺木恒子、高橋恵子、樋田久子▽日本私立中学校連合会頭事長賞＝志

20億円の大工場
磐城 東邦亜鉛の建設決る

県開発会社が土地造成を行なう磐城市小名浜、東邦亜鉛（本社東京、資本金十四億六千万円、社長相川恵之助氏）の電気精錬所と加工場が新設されることに決った。二十七日午後、県庁で開かれた県開発会社の理事会（会長佐藤知事）で会議されたもので、理事会の発表によると「東邦亜鉛の投下資本は二十億円、四月に着工し、四十年度に完全操業に入る予定だ」ということである。投下資本が十億円を越える大工場の県内誘致は三十三年十月の東北開発会社ハードボード工場以来のこと。とくに地元小名浜にとっては待ちに待たれた大洋電極の誘致が思わしくないといわれる矢先だけに大きな朗報である。

この東邦亜鉛は全国数カ所の候補地の中からとくに磐城市を選び、電気精錬所と電気亜鉛、電気銅、硫酸銅などの加工工場を新設することになったが、同会社の県内進出が決まった背景には県の積極的な工作とともに同社が原料を海外から輸入するにあたって小名浜港に注目したことがあげられている。なお同社は開発会社の手がける六十万坪の工場用地を購入、四月に着工、三次計画で整備、四十年度から完全操業に入ることになっている。

これと大関刑事が出向いた他平市内の自動車会社のセールスマンなども参考人として調べている。

米22俵盗まる

昨夜十一時ごろからけさ方にかけ四倉町大森字高野七九飯塚坂本弘之さん（三）方倉庫からモチ米二俵ウルチ米二俵（一俵個八万八千円相当）が盗まれているのを発ごした。

「夏井地区は工場の適地として有望視されている。現在農業が転換期にあるということなどから自らの手で地域社会の発展を図るべきだと工場誘致に乗り出すことになったわけである。今後は受入れ態勢を整えて関係方面に対して積極的な運動を展開する考えだ」。

炭鉱地区青年代表者会

磐城市炭鉱地区の青年、婦人代表者会議は二十五日午後五時から湯本会長館三十五人があつまって開き、青年会の問題について協議したが意見としては❶青年会には女子会員がなかったので今度から女子も参加させるべきだ❷組合

平工高の受賞者

▽優等賞＝松本庄英、加藤直幸、佐藤雄雄、坂本典久、菅野繁見、西塚勝巳▽産業振興中央会長賞＝菅野繁見▽同磐城支会長賞＝菅野繁見▽平商工会議所会頭賞＝坂本典久▽PTA会長賞＝加藤直幸▽同窓会長賞＝松本庄英▽ロータリー賞＝根本攻、北原光雄▽県高体連賞＝団体重量あげ、ラグビー各クラブ、同個人陸上競技各部▽磐城市体連賞＝個人

月14万円の節約
水素 テレタイプ利用で

磐城市の日本水素の名古工場では通信業務で電話の利用料が増えているため、こうした通信費の節減を図ろうとして昨年十月から本社工場間の連絡をテレタイプに転向したところ、規制前の月平均二十四万円の電話料が約十分の十四万円と大きく節減できることが判った。これによる年間約百六十万円の通信費が節減されることになった。

なお電話はテレタイプが故障した時やテレで急ぎが通じない時だけにのみ使用することになった。

定休日のお知らせ

明三月一日（第一水曜）は定休日ですので休ませて戴きます

株式会社 大黒屋
社長 馬目勝次郎

御宴会なら無駄なお金は入りません

安い会費の 酒喜庵
電 四四三一三

お徳で楽しい三階への階段

藤越 平市

越

撚編毛布 一五〇〇円を一〇五〇円
カーテン生地 一ぱ一〇〇円を七〇円
じゅうたん 一畳一〇〇〇円を七〇〇円
高級マットレス 一万五千円を九千円
洋風掛布団 二八〇〇円を一六八〇円
スポンヂ枕 三五〇円を二八〇円
ネグリジエ 九五〇円を四八〇円
（三階雑貨売場）

拾った衣服を入質

磐城署は二十七日二後東京生れ住居不定無職石川映こと拾得物横領の疑いで捕えた。同人はさる七日市内辰巳町地内で同市定西の漁夫熊谷信夫さん（三）が拾ったジャンパー（時価千五百円相当）を拾って質屋に入れたもの。他に漁船専門に盗みを働いているので余罪を追求している。

幼児の誘導中ひかれて重傷

二十七日午後十二時三十分ごろ磐城泉北磐城市一本町トラック助手白鳥明生さん（二）は勿来市錦町字大島地内でトラックを誘導中、誤って道路側に積んであった鉄筋に足をとられ横転、運転者の鈴木忠さん（三）の左車輪に轢かれろ骨六本を折った。白鳥さんを錦町県羽病院に担ぎこんだが重体。

自転車盗む

磐城署は二十七日夜十時双葉郡生れ住居不定大工舞狩利一（三）を盗みの疑いで調べた。昨年十一月二十六日夜磐城市下町地内の道路で消防署員渡辺雄さん（三）の自転車一台（三千円相当）を盗んだもの。

第一期生きょう修了式
炭離者訓練所

猪島総合職業訓練所内郷分所の第一期生修了式は二十八日二前九時から場板の同分所で多数の来賓を招いて行なわれた。第一期生は百八名でほとんどが炭鉱離職者であり最年長は六十四歳のおじいさんもいるが、このうち九十六名、八十九名が平、磐城、東京の町工場に就職決定した。残る人たちも近く決まる見込みになっており、修了式には中西所長代理、炭鉱、鉄鋼界、内郷市長から激励の言葉があって、あすから新しい職場に向って再出発する。

學窓を巣立つ若人に贈る 私の信条

誠実
他人に迷惑をかけず
常磐交通K K社長
野崎満蔵

理想は高遠に
[illegible]

人生は一本勝負
やりなおしができない
鈴木長政

誠実
諸橋久太郎

努力
堀江工業株式会社々長
長谷川常吉

人間愛なくて
何ぞ英雄たらんや
平市商店連合会長
坂本昌佐

心を芙蓉の山上におき
歩みは麓の一歩に始む
平市議会議長
矢吹大一

真実一路
新田目病院長
新田目五郎

常磐毎日
発行所 平市田町7番地 常磐毎日新聞社
電（代表）二三一五 二三一六
一面 平市二九（本町通り）電（午前）二三五五
叶産婦人科
一面 本町一（湯本駅前天王崎）電（午後）四〇一
分面

閻魔帖

「今晩」北西のち南寄りの風　夜から次第に海寄り時々曇
「明日」南寄りの風強り時々曇
「海上」今晩、明日とも多少風波ある程度

原油ガス化ろ完成

日本水素 十日から総合運転

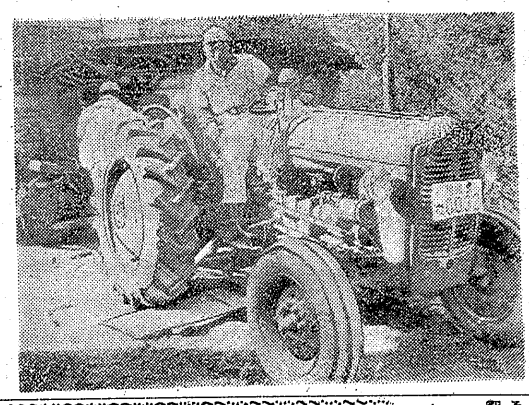
◇…発展の一途をたどっている磐城市高出の日本水素小名浜工場では原油のガス化を計画、着々と工事を進めていたが…◇

◇…このほど完成、「原油ガス化炉」の火入式を行うと共に十日から総合運転を行い、一基生産系列に入った。…◇

原油ガス化工事は高出生産課に工事を進めていたもので、三千キロリッター貯槽が去る一月二十日完成、本装置が二月七日完成、一基分の原油が炉に送られわけで、総合試運転の結果、非常な成績をあげたので直ちに生産系列に入り、二基ある内の一基も四月末には完成原油のガス化が本格的に行われる予定になっている。また排水汚染防止として排水ダスト処理をしたが、この設備は急速沈降集法が取り入れられ直径十六メートル、深さ四メートルのコンクリートプールに処理する排水を注入、同時に化学剤を加えて排水中のカーボン・ダストを水と分離するようになっていた。分離したものはパイプ輸送で工場敷地南端の沈でん池に送られ、浄化された排水が海に流れるが、汚染防止が完全にほどこされている。

深耕機具など備う

平地区農機化センター



（写真はボイルトラクター）

平地区開発機械化センターでは農村建設の近代化をはかるためこのほどボイルトラクター用の深耕機具、砕土機具、タイヤのスリップ止め用鉄鎖など三百（百万円相当）が県から贈呈、田畑の深耕作業、整地作業に活用されることになった。

砕土機は花型と丸型ローラーがそれぞれ十二枚ずついており、これを駆ばして砕土するもので巾二メートルもある。三連デスクプラウー、二連ボットンプラウープラウーは田畑兼用の深耕機。しかも畑では三十五、六センチ、田では三十センチの深耕が一メートルぐらいまで掘れる新鋭機であるというしろもので、ボットンせるというしろもので、ボットンプラウーは田畑兼用の深耕機。しかも畑では三十五、六センチ、田では三十センチの深耕が一メートルぐらいまで掘れる新鋭機であ